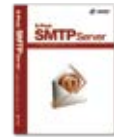


**E-Post MailServer (x64)**純国産の高性能
Windows対応メールサーバ

仕様表はこちらから

**E-Post SMTPServer (x64)**高性能SMTPゲートウェイ
Windows対応SMTPサーバ

仕様表はこちらから

**E-Post Secure Handler (x64)**インバウンドの安全なメールのみ通す
セキュアなメールゲートウェイ**E-Post BossCheckServer (x64)**メール誤送信目的を兼ねた
メール上長承認システム

E-Post Mail / SMTP Server (x64) シリーズ標準搭載ツール・ユーティリティ

E-Post LogAnalyzer(x64)ログ解析・集計ツール・
メールボックス使用量警告メール機能**E-Post Web管理ツール[CGI]**

Web管理ツール

E-Post Mail / SMTP Server (x64) シリーズ用 無償オプション[サポート2掲載]

E-Post Journal Option(x64)

簡易アーカイブ機能・メールバックアップ

Getattach[CGI]添付ファイルの分離・取得とWebサーバからの
ファイルダウンロードを有効にするCGIツール**EPSTDMARC**送信ドメイン認証(DMARC/DKIM/SPF/ARC)
アドオンツール**EPSTDKIM**

送信ドメイン認証(DKIM)アドオンツール

GETSPF

送信ドメイン認証(SPF)アドオンツール

E-Post Mail / SMTP Server (x64) シリーズ用 有償オプション

E-Post LGWAN Option(x64)LGWAN・インターネット併用環境でメール送信時や
受信時に自動的にドメイン名付け替えを可能にする
オプション

その他

E-Postシリーズはサーバ製品のため、Webメールクライアント機能は搭載していませんが、
オープンソースの日本語対応Webメールソフトである Roundcube Webmail や RainLoop について
インストールガイド・ユーザーズガイドを独自に作成、サイトに公開しております。

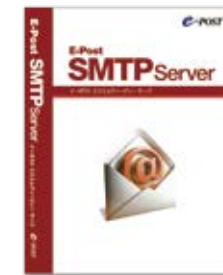
ライセンス認証について
「ライセンスキー」を入力して、ライセンス登録を行う際、80番ポートを使って弊社認証サーバとの間で通信が行われます。通信は、Windowsのインターネットオプション設定を参照します。閉じられたイントラネット環境で、Standard版をご利用になる場合でも、初回のライセンス登録時だけは、インターネット接続環境で認証していただく必要があります。ライセンス登録時でさえもインターネットに接続できない環境でご使用開始せざるを得ない場合は、作業員が赴き、手動でライセンス登録する、いわゆるアクティベーション作業を承ります。こちらは有償（首都圏以外は交通費別途）にて承っております。依頼される場合は、弊社営業担当までご相談ください。
また、Enterprise II 版では、ウイルスパターンファイル更新時にHTTPプロトコルを使用して通信が行われるため、インターネット接続環境が前提です。

動作推奨環境	
対応OS	Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025(予定)
CPU	推奨: Xeonコア相当のCPU 2GHz以上
HDD	Enterprise II 版はプログラム領域として180MB以上、Standard版はプログラム領域として28MB以上、加えてユーザーメールボックスおよびメール作業領域として必要な空き容量
メモリ	最低: 2GB以上 推奨: 4-8GB以上

開発・販売元

株式会社イー・ポスト〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-33-14 サンフラワービル
TEL: 03-5272-5386 FAX: 03-6856-9729<https://www.e-postinc.jp>問合せは sales@e-postinc.jp

Windowsメールサーバソフトウェアシリーズ

E-Post MailServerメールサーバ／SMTPゲートウェイサーバ
標的型メール攻撃防御セキュアメールゲートウェイ**安定した稼働実績**

独自のクラスタ構成により連続稼働を実現します。

安全を重視したセキュリティ対策スパムフィルタ、ウイルスチェック、標的型メール攻撃対策機能を搭載し、
メールの安全を図ります。**安心の充実サポート**純国産ソフトですので、日本語でのサポートやWebによる豊富な
ドキュメントを活用できます。また国内のメール環境に即座に対応します。**GUIによる簡単操作**

ウイザードによる簡単インストール&設定。サーバソフトとは思えない簡単設計です。

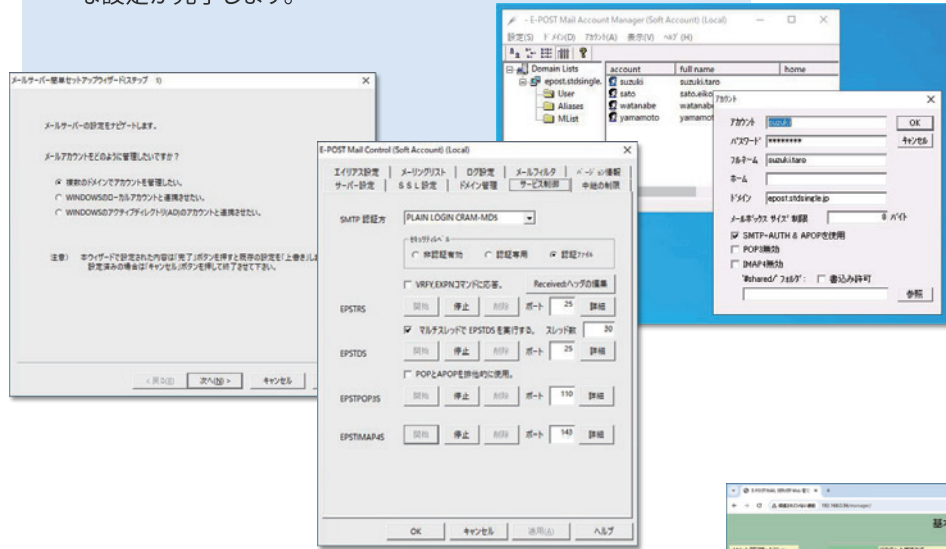
抜群のコストパフォーマンス

オンプレミス型なのでトータルコストの削減に寄与します。

E-Post MailServer (x64)

簡単設定ウィザードを用意

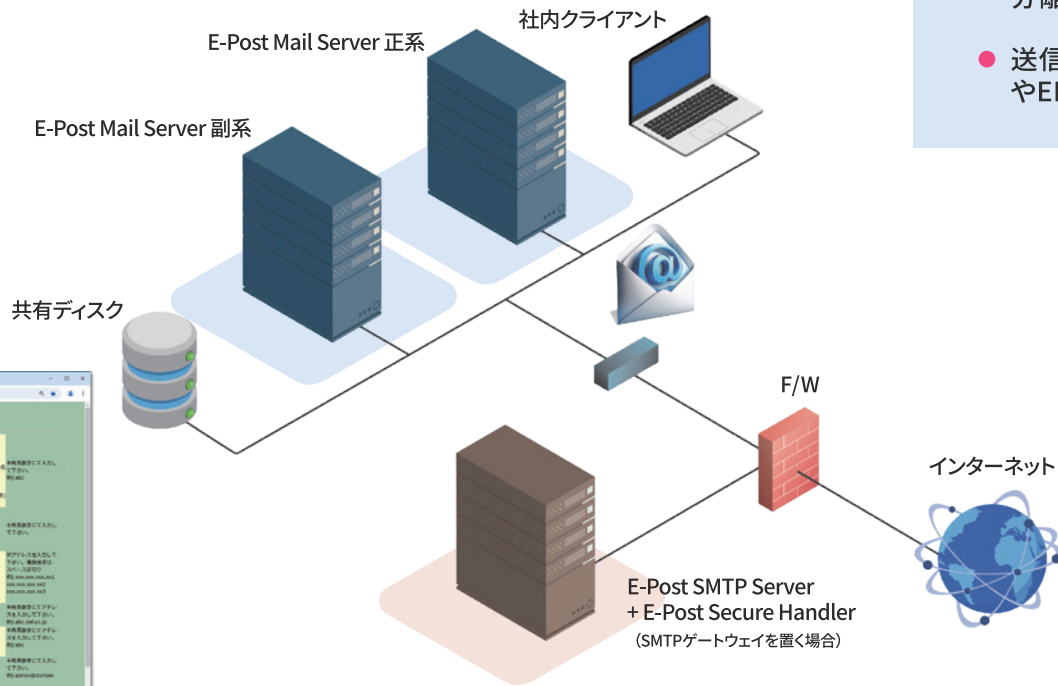
メールサーバの設定は初めてで、やはりむずかしいという方に、簡単設定ウィザードが用意されています。
インストール後、6つのステップの質問に答えるだけで標準的な設定が完了します。



64bitネイティブ対応版 E-Post(x64)シリーズ

E-Post Mail Server(x64)シリーズは、メールサーバソフトの64bitネイティブ対応版です。
Windows Serverも64bit環境が大前提の時代、今後もより長く安心して導入いただけます。

システム構成例 (クラスタ構成の場合)



Web管理ツールが付属

メールサーバマシンにWebサーバを立て、付属のCGIプログラムを設置すれば、Web経由で遠隔地からでも管理・運用が可能になります。
主要なインタフェース画面は、HTMLで記述されていますので、HTMLの加工により、必要な項目を絞り込む方法でカスタマイズ可能です。たとえば、ユーザーが自分のパスワードを変更するための画面が用意できます。



マルチドメイン・IPv6対応

SMTP/POP3/IMAP4各プロトコルとも、マルチドメインが1つのIPアドレスにて構築可能です。最大512ドメインを1台のサーバ上で管理できますので、IPアドレスの割り当てが少ない環境でも有効にメールシステムを構築運用できます。
さらに、IPv4アドレスの枯渇問題にも安心のIPv6対応です。

冗長化による連続稼働が可能: クラスタモデル版

アクティブ・スタンバイ方式によるHAクラスタ構成でメールサーバ冗長化が可能です。HAクラスタ方式は、オリジナルのE-Post方式のクラスタ構成か、Windows 2016/2019/2022に装備されているMSFC(Microsoft Failover Cluster)方式のフェールオーバークラスタ構成のいずれも可能です。万が一、メールサーバのシステムダウンが発生しても、もう一台のメールサーバが自動的に引き継ぎ、メールのSMTP受信と送信・POP3/IMAP4受信を継続するので、ダウンタイムの影響を最小限に食い止めます。

不正中継対策・スパムメール対策

不正中継の踏み台対策やスパムメール対策として、さまざまな拒否機能を用意しています。
さまざまな拒否機能を効率よく組み合わせ、不正中継対策や、スパムメール対策を取ることが可能です。IPアドレス・メールアドレス・カーボンコピー制限・メールサイズ制限・ORDB参照(DNSBL方式による判定)、メールフィルタ・SURBL/URLBL方式による判定、など。
ちなみに、ORDB参照(DNSBL方式)機能は「中継の制限」画面に組み込まれ、SURBL/URLBL方式サイトの参照機能は、メールフィルタ機能の一部として実装されています。

総当たり攻撃へのセキュリティ対策「接続ロックアウト」機能

総当たり攻撃へのセキュリティ対策を強化するため、SMTP認証・POP3認証・IMAP4認証での接続時に「接続ロックアウト」機能が実装されました。
SMTP認証・POP3認証・IMAP4認証での接続時に総当たり攻撃を受けたとき、設定回数で接続をロックアウト、攻撃をブロックします。設定期間中SMTP/POP3/IMAP4の各サービスはそれぞれ、該当IPアドレスからの接続を拒絶し強制切断します。
この機能により、特定のIPアドレスから繰り返される“総当たり攻撃”に対して接続を自動的に遮断できるため、サーバーの負荷を高めずに対策を行うことができます。

PPAP代替機能や送信ドメイン認証DMARC対応ツール等を用意

E-Postシリーズでは以下のようなオプション機能やアドインツールを標準で用意、ユーザー専用サイト「サポート2」より無償でダウンロード可能です。

- E-Post Journal Option 追加により簡易メールアーカイブ機能を実現できます。
- Getattach(CGI)プログラムを設定することで、PPAP代替として「添付ファイル分離配送&ファイル受信通知[メールストレージ]」機能が可能になります。
- 送信ドメイン認証(SPF・DKIM・DMARC・ARC)アドインツールEPSTDIMARCやEPSTDKIMを用意。Gmailなどのメール受信ルール厳格化に対応できます。

高速配信・安定性抜群の送信エンジンを搭載

メールマーケティングツールに利用できる数十万通のメーリングリスト配送にも余裕の送信エンジンを搭載。自社内に得意先への案内メールシステムとしてメールマーケティングツールとして活用できます。

Active Directory連携機能

ユーザーアカウントについては、Active Directory連携が可能になっており、Active Directoryサーバで管理されているユーザー情報のうち、MailGroupとして設定されたユーザーをそのままメールアカウントとして連携させて利用することが可能です。

メールボックス容量の使用状況表示とユーザーへの警告メール機能

多くのユーザー様から要望の多かったメールボックス使用料の使用状況表示機能と、ユーザーへの警告メール機能が付属ツールのE-Post LogAnalyzerに追加されました。
メールボックスサイズ制限を全体もしくはユーザー個別に設定しているとき、管理者はメールボックス使用状況を確認できます。また設定したしきい値を超えたユーザーに対して警告メールを自動送信する設定も可能です。

アンチウイルスエンジン搭載: Enterprise II 版

メールサーバにアンチウイルス機能が搭載されたEnterprise II 版では、ファストスキャン製アンチウイルスエンジンを搭載。独自の国産エンジンにより随時更新される約36万種のウイルス情報を利用したスキャンマッチングを行い、強力にメールデータのウイルスチェックを行います。アンチウイルス機能が不要の場合は同機能が搭載されていないStandard版をお求めください。

E-Post Mail Server (x64) 仕様・機能一覧表

製品名		E-Post Mail Server (x64) (※1)			
		Standard		Enterprise II	
		シングルサーバ	クラスタモデル	シングルサーバ	クラスタモデル
HAクラスタ機能 (E-Post方式) (※2)		－	○	－	○
HAクラスタ対応 (MSFC方式) (※3)		－	○	－	○
配送性能 (運用環境により異なります)		～30万通/時間 (※4)	－ (※5)	～数万通/時間 (※6)	－ (※5)
管理ドメイン数		最大512ドメイン			
対応プロトコル		SMTP／POP3／IMAP4 (※7)			
暗号化通信 (xxxx over SSL[TLS])		SMTP over SSL(TLS)、POP3 over SSL(TLS)、IMAP4 over SSL(TLS) (※8)			
暗号化通信 (STARTTLS)		STARTTLS (SMTP)、STARTTLS (POP3)、STARTTLS (IMAP4) (※9)			
SMTP認証 (SMTP AUTH)		○ (※10) (PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5)			
SMTP認証 送信者の信頼度設定		○ (3段階: SMTP認証ID・SMTP認証ID=エンベロープ・SMTP認証ID=エンベロープ=ヘッダFROM)			
接続 ロック アウト	SMTP認証接続ロックアウト機能	○ (設定回数以上SMTP認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
	IPロックアウト機能	○ (設定回数以上SMTPで連続接続してくる同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
SMTPゲートウェイ機能・フォワード機能 ゲートウェイテーブル【gateway.dat】		○ (フォワード先固定／対象ドメインごとの振り分け／対象メールアドレスごとの振り分け) (SMTP認証付きで外部SMTPへの送信リレー設定も可能)			
中継の制限機能 (SMTP受信送信の制限) 【effect.dat】		○ (IPアドレスや接続ドメイン名、メールアドレスでの許可・接続拒否、中継の許可・禁止など)			
ORDB参照機能 (DNSBL方式サイト参照) 【ordb.dat】		○			
SMTP配送の詳細設定		○ (全体共通設定 永続的拒絶時のリトライ／一時拒絶時のリトライ／サーバ無応答時のリトライなど)			
SMTP配送の利用時間設定 【usetime.dat】		○ (全体共通設定)			
SMTP配送・SMTP受信時の添付ファイル分離 およびファイル受信通知		○ (※11) (メールデータEMLファイルの取得とファイル受信通知[メールストレージ機能] ／CGIツール (※12) を使った添付ファイルの分離・取得とファイル受信通知[メールストレージ機能])			
SMTP受信メールサイズ制限・同報数制限		○ (全体共通設定)			
メールボックス保管サイズ制限		○ (全体共通設定)			
メールフィルタ設定 【mail.dat】		○ (全体共通設定 タイトル／本文／ヘッダ／SPAM判定用にURIBL [SURBL] サイト参照 ／拒否／タグ付け通過／指定アカウントへの転送など)			
POP3認証方式		○ USER/PASS (平文), APOP, AUTH (PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5) (※13)			
接続 ロック アウト	POP3認証接続ロックアウト機能	○ (設定回数以上POP3認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
	IPロックアウト機能	○ (設定回数以上POP3で連続接続してくる同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
IMAP4認証方式		○ LOGIN (平文), AUTHENTICATE (PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5) (※14)			
接続 ロック アウト	IMAP4認証接続ロックアウト機能	○ (設定回数以上IMAP4認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
	IPロックアウト機能	○ (設定回数以上IMAP4で連続接続してくる同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト ／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可)			
ActiveDirectoryユーザー管理との連携		○ (※15)			
E-Post独自方式ユーザー管理		○			
ア カ ウ ン ト 別 設 定	自動転送設定	○ (※16) (自動転送時の送信元指定など)			
	自動応答設定	○ (※16)			
	「メール制御」機能での追加処理プログラム	○ (※17)			
	メールボックス保管サイズ制限	○			
	個別メールフィルタ設定 【mail.dat】	○			
	利用時間設定	○			
	送信先制限設定 【sender.dat】	○ (指定アドレス・ドメインの送信許可／送信禁止)			
	SMTP受信制限設定 【effect.dat】	○ (指定アドレス・ドメインの受信許可／受信禁止)			
	SMTP認証設定	○ (認証あり・認証なし)			
	POP3無効化設定	○ (POP3有効/無効化の設定 ※無効化=IMAP4専用)			
	IMAP4無効化設定	○ (IMAP4有効/無効化の設定 ※無効化=POP3専用)			
アカウント情報のインポート・エクスポート		○ (※18)			
エイリアス		○ (※19)			
エイリアス情報のインポート・エクスポート		○ (※18)			

	Standard	Enterprise II
メーリングリスト機能	○ (連番、表題、Reply-To:ヘッダ、投稿パスワード、添付ファイル削除、投稿内容保管など)	
メーリングリスト情報のインポート・エクスポート	○ (*18)	
メーリングリストメンバーのインポート・エクスポート	○ (*18)	
対応IPバージョン	IPv4 / IPv6 (*20)	
ログ取得機能	接続マシン / SMTP受信 / SMTP送信 / SMTPローカル送信 / SMTP配送失敗 / SMTP配送詳細 / SMTP受信詳細 / POP3受信 / IMAP4受信 / POP3受信詳細 / IMAP4受信詳細 / --	接続マシン / SMTP受信 / SMTP送信 / SMTPローカル送信 / SMTP配送失敗 / SMTP配送詳細 / SMTP受信詳細 / POP3受信 / IMAP4受信 / POP3受信詳細 / IMAP4受信詳細 / ウイルス検出 / ウイルスパターン更新
管理面のセキュリティ	○ (システム環境パスワード / ドメイン管理パスワード / メールボックスフォルダのデータ暗号化 / アカウント情報エクスポート時のパスワード暗号化)	
Web管理機能	○ (*21) (3階層:システム管理者・ドメイン管理者・個別ユーザー)	
コマンド操作機能(コンソール機能)	○ (*22) (システム環境 / ドメイン管理 / アカウント管理 / エイリアス設定 / メーリングリスト設定など)	
アンチウイルス機能	—	○ (*23) ファストスキャン Anti-Virus エンジン
ウイルスメールの特定フォルダへの隔離	—	○
ウイルス発見時のメール通知	—	○
迷惑メール対策	ORDB参照(DNSBL方式)機能、SURBL/URIBL方式による参照機能(メールフィルタ)	
送信ドメイン認証対応	SMTP受領時での DMARC/DKIM/SPF/ARC 対応機能 new! (オプションのアドオンツール「サポート2」よりダウンロード) (*24)	
簡易アーカイブ(メールバックアップ)	全メール複写機能 及び ジャーナルオプション機能(「サポート2」よりダウンロード)	
ログ解析・集計レポート機能	ログ解析・集計レポート機能 (付属ツールE-Post Logalyzerによる)	
メールボックス使用状況レポート機能	メールボックス使用状況レポート機能 (付属ツールE-Post Logalyzerによる) (*25)	
ユーザーへのメールボックス使用量警告メール機能	ユーザーへのメールボックス使用量警告メール機能 (付属ツールE-Post Logalyzerによる) (*25)	

- (*1) クラスタモデル版、シングルサーバ版のパッケージ内容は同一であり、クラスタモデル版ライセンスは、シングルサーバ版ライセンス×2と同等です。ですからシングルサーバ版2台分でもクラスタリング構成は可能です。
- (*2) E-Post方式クラスタ機能は、IPレベルの監視を行います。サービスレベルの監視は行いません。HAクラスタ構成時の共有ディスクとして、Windows Server の共有ドライブや、Windows系NASなど、UNC名でアクセスが可能なネットワーク共有ドライブが利用可能です。なお、E-Post方式クラスタ機能は、ファイルI/O性能が限られるネットワーク共有ドライブを利用するため、大規模な環境には向きません。500user以上の大規模環境では、シングルでのご利用か、MSFCクラスタ環境でのご利用を推奨いたします。
- (*3) MSFC方式フェールオーバークラスタに対応するには、MSFCが利用できる Windows Server 2016 / 2019 / 2022 が必要です。ソフトウェア共有ストレージを利用する場合、Server 2016 / 2019 / 2022 に用意されているiSCSIターゲットサーバを使います。また、ファイバーチャネルやiSCSIなど専用の共有ストレージを利用する場合は、関連ベンダーにお問い合わせください。
- (*4) ネットワーク負荷のない理想的な環境でのメールサイズ2～3KB程度による試験結果です。なお、アンチウイルス機能を持つ Enterprise II 版での配送能力は、アンチウイルス機能を搭載しない Standard 版のそれに比べて、約1/3～1/10程度に下がります。メールフィルタの設定を多数登録しているときも、設定量だけ負荷がかかり、配送能力はその分低下します。そのためアンチウイルス機能をもつ Enterprise II 版の適正規模は500user程度、MAXでも1000userまでとお考え下さい。
- (*5) 共有ディスクのアクセス速度・転送速度が遅い場合、それらがパフォーマンス低下の要因となります。E-Post方式クラスタ機能は、ファイルI/O性能が限られるネットワーク共有ドライブを利用するため、user数の多い大規模な環境には向きません。大規模環境では高速なストレージを使用できるMSFC方式クラスタでの導入を推奨します。特にIMAP4プロトコルを利用して大量のメールデータにアクセスするときには影響が大きいことがわかっています。クラスタ構成時にユーザーアカウントをAD連携させた場合、加えてパフォーマンスは下がります。パフォーマンスを低下させないためには、E-Post独自アカウント方式で設定することを推奨します。
- (*6) ネットワーク負荷のない理想的な環境でのメールサイズ2～3KB程度による試験結果です。メールフィルタの設定を多数登録しているとき、設定量だけ負荷がかかり、配送能力は低下します。
- (*7) POP3プロトコル使用時は、1サーバ10000ユーザークラスの大規模利用でも、サーバの能力さえあれば理論的に問題は少なく使用実績もあります。一方、IMAP4プロトコル使用時は最大でも1サーバ500ユーザークラスを目途にすることを推奨します。
- (*8) SSL/TLS通信を検証するだけなら自己認証局でも十分ですが、本格運用にあたっては正規の認証局(CA)による証明書の発行と取得が必要です。なお2019年1月公開の20181224最新差分アップデート以降を適用した版では、SSLは廃止され、TLS1.0～TLS1.3に対応します。
- (*9) STARTTLS(SMTP)とSMTP Over SSL との違いですが、SMTP Over SSL が465番ポートで接続時点から"暗号通信"されるのに比べ、STARTTLS は25番ポートのまま接続、最初は"プレーン通信"でネゴシェーション後に途中から"暗号通信"を開始するという基本的な違いがあります。設定の要点は、STARTTLS での受信時には(*8) のSSL(TLS)の証明書・鍵情報をそのまま用いる一方、送信時には「ESMTPで送信」を有効設定にすることで STARTTLS での送信が可能になります。
- (*10) 認証ファイルによりユーザーごとのSMTP認証有無設定が可能です。またSMTP認証付きで外部SMTPへの送信リレー設定を行う場合、組み合わせる外部のホスティング・レンタルサーバは原則、SMTP AUTH(SMTP認証)を実施していることを前提としています。
- (*11) 2021年4月以降の最新差分アップデートを適用することが必要です。さらにIISなどのWebサーバ動作環境が必要です。
- (*12) CGIツールの getattach.exe は次年度更新用CDに収録されるほか、「サポート2」サイトよりダウンロード可能です。
- (*13) APOP認証とSMTP認証で使われる認証ファイルは共用です。AUTHはSASL(Simple Authentication and Security Layer)と呼ばれる認証方式で、E-Postでは便宜上POP-AUTHと呼んでいます。これは2018年7月公開の最新差分アップデートならびにそれ以降のモジュールでの実装機能であり、利用するにはメールクライアント側の対応が必要です。
- (*14) IMAP4サービスプログラムのモジュールv4.57以前は LOGIN/CRAM-MD5 のみ、2018年10月公開の最新差分アップデートならびにそれ以降のモジュールv4.58以降は、これにPLAINが加わり PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5 となります。
- (*15) POP3認証時またはIMAP4認証時のユーザー名・パスワード部分が連携されます。SMTPではユーザー情報のみが連携されます。SMTP認証/パスワードについては連携はありません。
- (*16) 自動転送機能と自動応答機能とは排他でいずれかの設定が可能です。両方とも有効にする設定はできません。また自動応答機能での自動応答文はJIS(iso-2022-jp)に変換して登録する必要があります。Web管理ツールから登録する場合は強制的にJIS(iso-2022-jp)で登録されるので変換する必要はありません。
- (*17) 追加処理プログラムで指定できるのは標準コンソールベースで動作するプログラムに限られます。GUIベースのプログラムは実行できません。
- (*18) タブ区切り形式テキスト(TSV)により可能です。
- (*19) エイリアスは実アカウントとの関連づけが原則です。基本的にエイリアスと実アドレスが一对一の関係で設定します。エイリアスどうしの関連づけは対応していません。また「エイリアス 対 実アドレス多」のような設定はE-Postシリーズでは不可です。なお作成するエイリアス数も、必要ライセンス数としてカウントされます。
- (*20) E-Postクラスタ構成時に利用されるIP監視ツールであるIPWCS(IPWatcher) サービスは、IPv4環境でのみ使用可能です。IPWatcher は、IPv6には対応していません。
- (*21) IISなどのWebサーバ動作環境が必要です。
- (*22) Web管理ツールが動作するよう設定されている必要があります。
- (*23) アンチウイルス機能をもつ Enterprise II 版の適正規模は500user程、MAXでも1000userまでとお考え下さい。またアンチウイルス機能はインターネット接続環境が前提です。ファストスキャンは、株式会社ケイ・テックの製品ならびに商標です。
- (*24) SMTP受領時でのDMARC対応ツールは2024年6月公開の送信ドメイン認証(DMARC)アドオン EPSTDIMARC v1.06cです。EPSTDIMARCを設定することでDMARC/DKIM/SPF/ARCのすべてを含む対応が可能となります。その他従来からのツールとしては、DKIM対応ツールの送信ドメイン認証(DKIM)アドオン EPSTDKIM v1.04a、SPF対応ツールの送信ドメイン認証(SPF)アドオン GETSPF v1.07です。EPSTDIMARC・EPSTDKIMは次年度更新用CDに収録されるほか、すべて「サポート2」サイトよりダウンロード可能です。
- (*25) 2018年7月公開の最新差分アップデートならびにそれ以降のモジュールでのE-Post Logalyzerに実装された機能です。

動作推奨環境		必要ライセンス数について E-Postシリーズの必要ライセンス数は「アカウント数+エイリアス数+メーリングリスト設定数」の合計数です。 一方で E-Post Mail Server (x64) シリーズのパッケージは、50user版/100user版 /250user版/500user版/1000user版/2000user版/3000user版/5000user版 /10000user版という区切りになっています。たとえば700の必要ライセンスが想定される場合は、必要ライセンス数が充足するよう1000user版をお求めください。 ライセンス認証について 「ライセンスキー」を入力して、ライセンス登録を行う際、80番ポートを使って弊社認証サーバとの間で通信が行われます。通信は、Windowsのインターネットオプション設定を参照します。閉じられたイントラネット環境で、Standard版をご利用になる場合でも、初回のライセンス登録時だけは、インターネット接続環境で認証していただく必要があります。ライセンス登録時でさえもインターネットに接続できない環境でご使用開始せざるを得ない場合は、作業員が赴き、手動でライセンス登録する、いわゆるアクティベーション作業を承ります。こちらは有償(首都圏以外は交通費別途)にて承っております。依頼される場合は、弊社営業担当までご相談ください。 また、Enterprise II 版では、ウイルスパターンファイル更新時にHTTPプロトコルを使用して通信が行われるため、インターネット接続環境が前提です。
対応OS	Windows Server 2016 / 2019 / 2022 (*26)	
CPU	推奨: Xeonコア相当のCPU 2GHz以上 (*27)	
HDD	Enterprise II 版はプログラム領域として180MB以上、Standard版はプログラム領域として28MB以上、加えてユーザーメールボックスおよびメール作業領域として必要十分な空き容量 (*28)	
メモリ	最低: 2GB以上 推奨: 4-8GB以上 (*29)	

(*26) 64bit版 E-Post (x64) シリーズは64bitOS環境で64bitアプリケーションとして動作します。Windows Serverのエディションは利用制約の少ないStandardエディション以上をお薦めします。なお、Windows Server の日本語環境での運用が前提です。
(*27) デュアルコア、マルチプロセッサへの対応について、E-Post Mail Server (x64) シリーズは、ほとんどすべてのサービスプログラムが内部処理でマルチスレッドプログラミング化されており、十分な性能を発揮できることが予想されます。
(*28) ファイルシステムとしてNTFSでの使用を前提にしています。また一般的にメールサーバシステムにおいては、CPUよりもファイルI/Oがボトルネックになることが多いです。できる限り高速なインターフェースに接続された高速ディスク装置を推奨します。
(*29) Standard 版より Enterprise II 版の方がより大きなメモリ容量を必要とします。Mail Serverでは、SMTP/POP3プロトコル利用形態よりSMTP/IMAP4プロトコル利用形態の方がより大きなメモリ容量を必要とします。